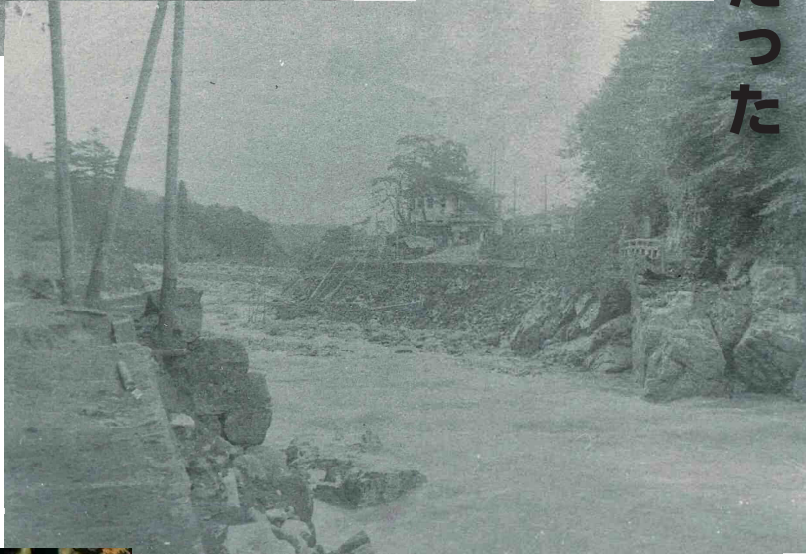


神橋流出前



明治35年(1902)神橋流出

# 神橋・滝尾神社

名所は被災地だった

## 消えた、壊れた、日光の名所

日光を代表する名所である神橋と滝尾神社。この名所が土砂災害による被害に見舞われていることをご存知でしょうか？

明治35年(1902)、栃木県全県に被害を及ぼした足尾台風は、日光連山を中心に豪雨をもたらし、大谷川で洪水が発生。神橋が跡形もなく流失し滝尾神社も被災しました。

また、昭和41年(1966)の土砂災害では、天狗沢で土石流が発生、白糸の滝付近の道路上に巨石が押し寄せ、滝尾神社参道が被災、滝尾稲荷神社が流出しました。

火山に囲まれた日光にとって、土砂災害は常に「今、そこにある危機」。名所は、そんな日光の一面を、今に伝える存在でもあるのです。



現在の神橋



明治35年被災時の滝尾神社



現在の滝尾神社



さらに詳しい  
情報はこちらから

国土交通省 関東地方整備局 日光砂防事務所

「砂防なくして日光なし」-先頭に立って砂防の必要性を訴えた初代日光市長・佐々木耕郎氏の言葉